

仙人通信 159 備前楯山(1273 m)

備前楯山は、渡良瀬川の源流にある足尾銅山の鉱脈の山として有名である。山名の起こりは、1600年頃に備前の人が銅の鉱石をこの山で最初に発見した事によるとある。

国道122号の切幹から庚申川に沿った林道を銀山平まで進み、大きくUターンする感じで舟石林道を1km程進んだ舟石峠に車を置いて、山頂をピストンする計画とした。

駐車場からは、男体山を中心に薬師岳・黒檜岳・庚申山が目の前に広がる。又駐車場には舟石峠の由来となる2mもある舟石が置かれている。コースは駐車場の北側から、庚申山を眺めながらのスタートだ。足元では、青いムラサキサギゴケや黄色いジシバリ・ツチグリの花そして白いヒカゲスミレである。青い小さなハルリンドウも1輪痛々しく咲いていた。このコースは関東ふれあいの道の一環として整備されたもので、急斜面には丸太の階段が整備され歩き易い。この時期、例年だとアカヤシオが一面に咲くとこの事であるが、暖かい春の為に1週間前に終わり、今は赤いヤマツツジが最盛期である。

10分程で最初のピークで、眼下には銀山平へと繋がる林道が、又庚申山も全景が望める。このコースは、山頂まで1.5km程であるが、300m間隔で道標が整備され歩き易い。コースの南側は水檜やリョウブ・赤松の林が、又北側は唐松林と芽吹いたばかりの若葉にヤマツツジの赤が映える。やがてコースは山肌を南に向かい登るようになる。

足元では、黄色いツチグリや白いヒカゲスミレが僅かに見られるのみであるが、小鳥の声に混じりハルゼミ・カジカカエル等の鳴き声に背中を押されての登だ。

山頂まで300mの標識の地点からは、サラサドウダンツツジも加わり応援してくれる。

山頂にはスタートしてから50分で到着である。小さな山頂ではあるが、西側を除き袈裟丸山・鋸山・庚申山・皇海山・黒檜岳・男体山・地蔵岳・薬師岳・石裂山等が確認出来た。眼下には、間藤の街だ。間藤の近くの山肌は、嘗ての製錬の際に出した亜硫酸ガス等で木々が痛められ、岩肌を剥き出しており可愛そうだ。しかし山頂周辺は、ヤマツツジ・ドウダンツツジ・ナナカマドやホウ等ですがすがしい。この山の山腹には、1200kmに及ぶ坑道があると聞いており、複雑な気持ちだ。山頂でのんびりと憩うた後、舟石峠まで戻る全行程2時間20分(9500歩)の山旅を済ませました。

舟石峠からは、林道を下り県道250号に出た地点にある日本最古の鉄橋を眺め、往時を偲んだ。更につうどう駅近くの足尾銅山観光のトロッコに乗り坑道に入り、江戸・明治・大正・昭和の鉱山の坑道や作業の風景を実物大で見学し、更に足尾で採れた鉱石を眺める事が出来た。又鑄銭座の資料等も見学し、在りし日の足尾銅山を再勉強した山登りとなりました。

(h29. 5. 29)

舟石



山頂



山頂から男体山



日本最古の鉄橋

